

# 中河原あれこれ

(中河原歴史資料)

平成28年9月発行  
平成30年12月改訂

中河原都市開発株式会社

## 目次

|   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 1 | 中河原の地名由来.....                | 1  |
| 2 | 中河原の歴史年表.....                | 2  |
| 3 | 地図に見る中河原の変遷.....             | 6  |
|   | (1) 鎌倉街道.....                | 6  |
|   | (2) 中河原渡し.....               | 7  |
|   | (3) 多摩川の流路と鎌倉街道渡河地点の変遷.....  | 8  |
|   | (4) 明治初期の川と道.....            | 9  |
|   | (5) 旧河道・微高地と明治後期中河原周辺集落..... | 9  |
|   | (6) 鎌倉街道上道(鎌倉古道)、甲州街道古道..... | 10 |
| 4 | 地名由来碑.....                   | 11 |
|   | ◆中河原(なかがわら).....             | 11 |
|   | ◆小野宮(おののみや).....             | 12 |
|   | ◆間嶋(あいじま).....               | 12 |
|   | ◆四谷(よつや).....                | 13 |
|   | ◆下河原(しもがわら).....             | 13 |
|   | ◆分梅(ぶばい).....                | 14 |
|   | ◆本宿(ほんしゅく).....              | 14 |
| 5 | 中河原周辺の沖積低地形成時期と府中市の遺跡.....   | 15 |
|   | (1) 地質図で見ると中河原と周辺地域形成時期..... | 15 |
|   | (2) 府中市の遺跡.....              | 15 |
| 6 | 中河原駅の歴史.....                 | 17 |
| 7 | 【参考資料】中河原と周辺の土質柱状図.....      | 18 |

## 1 中河原の地名由来

中河原（なかがわら）は、現在の住吉町一丁目の一部（鎌倉街道沿い）に集落の中心があった村落です。幕末の地誌「新編武蔵風土記稿」には、「家数三十四軒所々に散在す」とあります。

中河原は、もと大道（大堂とも）と呼ばれていましたが、天文年間（1532-55）の多摩川の洪水により、石河原になってしまったために、それ以降は中河原と称したといわれています。古く、多摩川ははるか北側を流れており、中河原は多摩川の南側に位置していたようです。

地名の起こりは、集落が古多摩川（古玉川）と浅川との間の河原にあったことによるようです。中河原からは応安七年（1374）などの年紀が刻まれた板碑が出土しており、集落の古さを物語っています。（府中市設置の地名碑から）

※1660年頃に現在の多摩川の流路に固定されるまでは、現多摩川に浅川が流れており、古多摩川は立川段丘に沿って日野橋付近～日本電気北側～分梅町～是政付近で浅川と合流していたようです。



## 2 中河原の歴史年表

中河原歴史年表

2016/6/15作成

| 時代   | 西暦   | 和暦    | 記事  |                     |
|------|------|-------|---|---------------------|
| 南北朝  | 1374 | 応安7年  | この年の年号の板碑が中河原村村域から出土（府中市中河原地名由来碑）   |                     |
| 室町   | 1415 | 応永22年 | この年の鎌倉寛勝考の記事に吉富郷内中河原村として記述  |                     |
|      | 1461 | 寛正2年  | 鎌倉八幡宮の記録に関戸郷六カ村の一つとして中河原村の記述  |                     |
| 安土桃山 | 1585 | 天正13年 | この年の新田開発申出書の関戸文書に関戸郷中河原村の記述   |                     |
|      | 1596 | 文禄5年  | 多摩川大洪水で、流域の村々が押し流された。この後多摩川の治水工事本格化。  |                     |
| 江戸   | 1660 | 万治3年  | 多摩川の治水工事の結果、現在の流路・河床にほぼ固定される。   |                     |
|      | 1804 | 享和4年  | 新編武蔵風土記稿に、日野領中河原村として民家34戸の記述  |                     |
| 明治   | 1868 | 明治元年  | 中河原村など多摩郡幕府領が蕪山県となる。  |                     |
|      | 1869 | 明治2年  | 本宿村が品川県となる。   |                     |
|      | 1871 | 明治4年  | 品川県が廃止。中河原村を含む後の北多摩郡と西多摩郡、南多摩郡の一部（現八王子市北部）が入間県となる。  |                     |
|      | 1872 | 明治5年  | 入間県のうち中河原村を含む現府中市域が神奈川県に移管。   |                     |
|      | 1878 | 明治11年 | 郡区町村編制法の施行により、神奈川県多摩郡のうち中河原村を含む1町131村の区域をもって北多摩郡が発足。同時に、神奈川県西多摩郡、南多摩郡、東京府東多摩郡が発足。                                     |                     |
|      | 1889 | 明治22年 | 3月31日 - 下記の各村が合併。<br>府中駅（単独町制。現・府中市）<br>西府村 ← 本宿村、中河原村、四ッ谷村（現・府中市）<br>多磨村 ← 下染屋村、押立村、人見村、是政村、上染屋村、常久村、小田分村、車返村（現・府中市） |                     |
|      | 1893 | 明治26年 | 4月1日三多摩が東京府の管轄となる。<br>6月19日府中駅が府中町に改称。  |                     |
|      | 大正   | 1925  | 大正14年   | 玉南電気鉄道中河原駅開業        |
|      | 昭和   | 1930  | 昭和5年  | この年の世帯数48世帯         |
|      |      | 1937  | 昭和12年   | 関戸橋開通。中河原（関戸）の渡し廃止。 |
| 1954 |      | 昭和29年 | 府中町・多磨村・西府村が合併して府中市が発足（この当時の中河原は145世帯826人）  |                     |
| 1955 |      | 昭和30年 | 南多摩郡多磨村大字蓮光寺の「下河原」（府中市広報では「下川原」）「中島の一部」を府中市に編入  |                     |
|      | 1965 | 昭和40年 | 府中市町名地番改正により旧中河原村を中心に住吉町となる。  |                     |

中河原地域から出土した  
1374（応安7）年の年紀が刻まれた板碑



資料提供 府中市郷土の森博物館

関戸文書

松田憲秀印判状（関戸文書）  
 天正一三年（一五八五）三月二四日  
 関戸郷中河原之  
 内正戒塚ニ、有山源右衛門  
 新宿立候、近辺之  
 荒原可成田地之由  
 申出候、七年荒野ニ  
 定出置者也、仍如件、  
 乙酉  
 三月廿四日 岡谷  
 有山源右衛門とのへ

（読み下し）  
 関戸郷中河原の内、正戒塚に有山源右衛門新宿を立て候。近辺の荒原を田地に成すべきの由申し出で候。七年荒野（七年の間荒野とみなし、年貢を免除する）に定め、出し置くもの也。仍て件の如し（よってくだんのごとし）  
 乙酉（きのと）天正十三年）  
 三月二十四日 松田憲秀朱印  
 岡谷（松田家家臣、岡谷将監）  
 有山源右衛門との

松田憲秀印判状は、有山源右衛門が関戸郷中河原の正戒塚という場所に新宿を立てるにあたり、七年間の免税措置を認められたものである。源右衛門が新宿を立てた正戒塚（性戒塚・性皆塚）は、『新編武蔵風土記稿』によれば中河原村の東にあったが、いつの頃か多摩川洪水の時に流出し、川原になったという。この文書は「関戸文書」とも言われている。松田憲秀は小田原北条氏の重臣であった。



江戸時代（1603-1868）後期 1830 年作成の新編武蔵風土記稿の絵図から、中河原村周辺の集落の名称です



明治22年に合併で西府村になった頃の中河原村の範囲が、いろいろな方のご協力を得てわかってきました。その範囲を、国土地理院の地図に描いてみました。

### 江戸時代の村の生産高と戸数

| 村名   | 石高   | 戸数  | 石高/戸数 |
|------|------|-----|-------|
| 中河原村 | 117  | 34  | 3.44  |
| 四ツ谷村 | 272  | 52  | 5.23  |
| 本宿村  | 1226 | 169 | 7.25  |
| 屋敷分村 | 389  | 60  | 6.48  |
| 是政村  | 944  | 127 | 7.43  |
| 上谷保村 | 1329 | 160 | 8.31  |
| 下谷保村 | 558  | 96  | 5.81  |
| 関戸村  | 210  | 68  | 3.09  |
| 連光寺村 | 272  | 84  | 3.24  |

※石高→「武蔵國郷帳 上」1834年（天保5年） 戸数→「新編武蔵風土記稿」1830年（文政13年）

【石高制】太閤検地以後江戸時代を通じて、田畑や屋敷などの土地の価値に至るまで、面積に石盛という一定の計数をかけて米の生産力に換算して石単位で表示するようになった。このような制度を石高制と言い、米以外の農作物や海産物の生産量も、米の生産量に換算されて表された。平均的には、1石（150kg）の米を収穫する土地の面積を1反（300坪）とした。1石＝10斗＝100升＝1000合。一人が1日に食べる米は約3合とすれば、1食1合となり、1石で約一人の1年分の量。

江戸幕府の石盛の基準

| 上田    | 中田    | 下田   | 上畑    | 中畑    | 屋敷   |
|-------|-------|------|-------|-------|------|
| じょうでん | ちゅうでん | げでん  | じょうばた | ちゅうばた | やしき  |
| 1石5斗  | 1石3斗  | 1石1斗 | 1石1斗  | 9斗    | 1石1斗 |



### 3 地図に見る中河原の変遷

#### (1) 鎌倉街道

中河原は、古来から鎌倉街道の沿道に発展して来ました。

古鎌倉街道は国分寺市の国分尼寺跡北隣に切通しが残っており、それからまっすぐ南下して現在の東芝府中工場内を通り、浅間神社・八雲神社前の陣街道から多摩川に向かい、中河原の渡しを経由して鎌倉に至っていたと思われます。

大国魂神社西側の府中街道大国魂神社西交差点から第三小学校前を通り、光明院前で古鎌倉街道に合流する、現在の鎌倉街道は、江戸時代に整備されたと言われています。

分梅消防署前からライフ角までの道路は、昭和12年に関戸橋と同時に整備されたようです。

新甲州街道（国道20号線）の本宿交番交差点から本宿トンネルを経て、中河原、関戸橋方面に向かう主要地方道18号線は、昭和52年（1977年）に開通しました。平成26年4月1日に公表された東京都の通称道路名ではこの道路の中河原駅北口交差点から北側を、「新府中街道」と称しています。

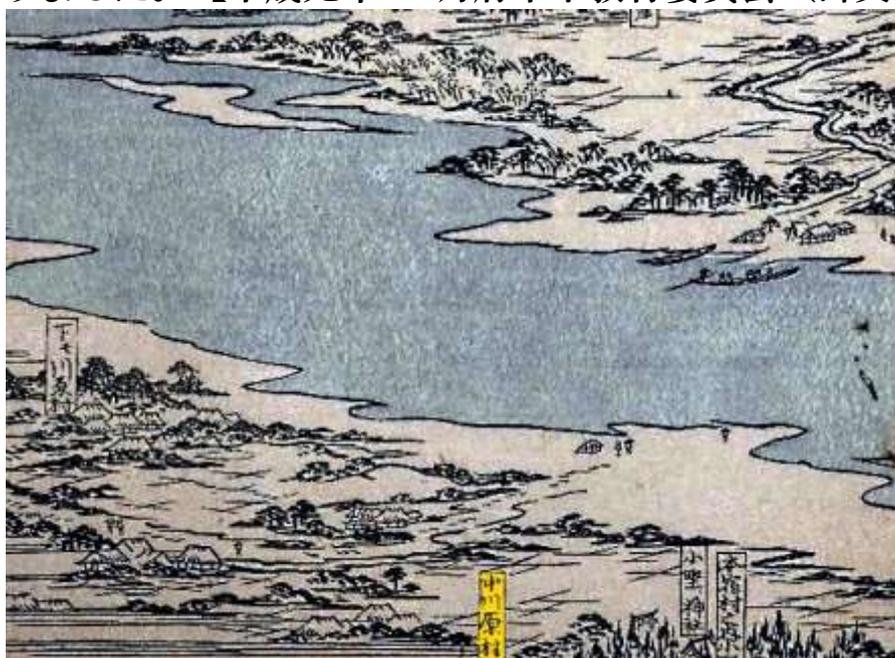


## (2) 中河原渡し

中河原渡しは、中河原と 対岸の関戸(現多摩市)との間を結んでいた鎌倉街道筋の渡しで、中河原村が経営していたことから その名があります。

多摩川の中に 中河原村と 関戸村の境界があるため、関戸側には 関戸村が経営する関戸渡しが設置されていました。

これらの渡しは、昭和 12 年に関戸橋が竣工し、その歴史の幕を閉じました。渡し賃は、明治 25 年で平水時(2 尺 5 寸)徒歩(一人)3 厘、馬(一頭)6 厘、人力車(一輛)6 厘、大七以上荷車(一輛)1 銭などでした。水深が 5 尺以上になると「川止め」(通船禁止)になりました。【平成元年 12 月府中市教育委員会 (碑文から)】



江戸時代 (1603-1868) 後期 1845 年作成の調布玉川惣畫圖 (チョウフタマガワソウガズ) という、多摩川 の水源から河口までの風物を描いた卷子仕立ての地誌の中の中河原村 (図では「中川原」村) の様子です。

### (3) 多摩川の流路と鎌倉街道渡河地点の変遷

多摩川の流れと鎌倉街道が川を渡る中河原の渡し（関戸の渡し）の位置の変化を、明治13年（1880）から大正10年（1921）の地図で見ました。

なお、現在の関戸橋は昭和12年（1937）に完成しました。



#### (4) 明治初期の川と道

迅速測図【明治13(1880)年から明治19(1886)年に簡便な測量法で作成】の主要な道路・河川・用水と堤防、河川敷範囲を最近の地図に重ねてみました。



#### (5) 旧河道・微高地と明治後期中河原周辺集落

明治39年の地形図と治水地形分類図を使用して 家屋連坦部の配置を治水地形分類図に重ねてみました。明治初期の中河原村の範囲も地形図に描いてみました。



## (6) 鎌倉街道上道(鎌倉古道)、甲州街道古道

国土地理院の明治42年製版地図で推定した、鎌倉時代に整備された鎌倉街道上道跡と甲州街道の変遷を最近のGoogleMAPに描いてみました。現甲州街道は江戸初期整備、その直前が旧道、その前が古道で表記。



## 4 地名由来碑

中河原周辺にある、府中市が設置した地名の由来碑の場所と碑文を紹介します。



### ◆中河原（なかがわら） > 御嶽森公園内 御嶽神社隣地

中河原（なかがわら）は、現在の住吉町一丁目の一部（鎌倉街道沿い）に集落の中心があった村落です。

幕末の地誌「新編武蔵風土記稿」には、「家数三十四軒所々に散在す」とあります。中河原は、もと大道（大堂とも）と呼ばれていましたが、天文年間（一五三二～五五）の多摩川の洪水により、石河原になってしまったために、それ以降は中河原と称したといわれています。古く、多摩川ははるか北側を流れており、中河原は多摩川の南側に位置していたようです。

地名の起こりは、集落が古多摩川（古玉川）と浅川との間の河原にあったことによるようです。中河原からは、応安七年（一三七四）などの年紀が刻まれた板碑が出土しており、村落の古さを物語っています。



#### ◆小野宮（おののみや） >小野ノ宮公園内

小野宮（おののみや）は、現在の住吉町三丁目の一部（小野神社辺り）に集落の中心があった村落です。

この集落は本宿に属しており、「新編武蔵風土記稿」（幕末の地誌）には「本宿村」の小名としてその名が見えます。

小野宮は、近世初頭の大洪水によって集落を失いましたが、多摩川の流が定着したのを機会に旧地へもどり村を再建したようです。

地名の起こりは、この地に小野神社（小野宮）が鎮座することによります。

小野神社は、「延喜式」の神名帳に記されている由緒の深い古社で、六所宮（大国魂神社）の「一之宮」に列せられています。



#### ◆間嶋（あいじま） >間嶋神社境内

間嶋（あいじま）は、現在の住吉町三、四丁目の一部（間嶋神社辺り）に集落の中心があった村です。

この集落は本宿に属しており、「新編武蔵風土記稿」（幕末の地誌）には、「本宿村」の小名としてその名が見えます。もともと間嶋は青柳島（関戸橋の西方）にありましたが、多摩川の洪水で流されたために移転したと伝えられています。青柳島の住民の多くは、他所（国立市青柳）へ移住したようです。

地名の起こりは不明ですが、古く、集落のあるところが河川との間の島のような中州であったことによるのかもしれない。

延宝六年（一六七八年）の検地帳には「相嶋」と誌されています。



#### ◆四谷（よつや）＞四谷文化センター入り口

四谷（よつや）は、現在の四谷二丁目の一部（四谷通りと東大山道にはさまれた地域）に集落の中心があった村落です。

幕末の地誌「新編武蔵風土記稿」には「寛永の初洪水にて、地所一旦流出せしを、今の村民三左衛門が先祖内匠（市川姓）再び開墾せし邑なりといふ、民家五二戸、處々に散在す」とあります。古くは、「四つ家」の字があてられています。

地名の起こりは、四つの家が村を興したことによるようです。その四軒の家については、諸説があつて不明です。この地域は多摩川の氾濫原で、谷とおぼしき地形はありません。四谷の西端（四谷六丁目）の三屋は、「四ツ谷村」に属した集落です。



#### ◆下河原（しもがわら）＞南町第3公園内 八幡神社隣地

下河原（しもがわら）の集落は、現在の南町四丁目の一部（下河原通り沿い）に中心があった村落です。

この集落は、蓮光寺（多摩市）に属しており、「新編武蔵風土記稿」（幕末の地誌）には、「蓮光寺村」の小名としてその名が見えます。古くは一村をなしていたようです。

地名の起こりは、地形に由来するようで。「風土記稿」には「多摩川にそひたる飛地なり、地勢自づからひくきを以って、かく呼べるならん」とあります。「中河原」の下手（多摩川の下流）の集落とする説もあります。

下河原の区域(面積〇. 四七平方キロメートル、人口三五〇人、六四世帯)が境界変更により府中市に編入したのは、昭和三十年四月のことです。



◆分梅（ぶばい） >分梅三叉路緑地内

分梅は、現在の分梅町二、三、四、五丁目の一部（鎌倉街道～分梅通り沿い）に集落の中心があった村落です。この集落は本町に属しており、「新編武蔵風土記稿」（幕末の地誌）には「本町」の小名としてその名が見えます。分梅はもとハケ上の上分梅（八雲神社辺り）に集落の中心がありましたが、多摩川の流れが南に移った後分倍河原に進出したといわれています。古くは「分倍（陪）」や「分配」の字があてられ、「ぶんばい」と呼ばれていたこともあります。近世以降には「分梅」が多用されています。

地名の起こりは、不明ですが、この地がしばしば多摩川の氾濫や土壌の関係から収穫が少ないために。口分田を倍に給した所であったという説があります。



◆本宿（ほんしゆく） >熊野神社境内山車小屋付近

本宿は、現在の西府町2丁目・本宿町2丁目・美好町3丁目のそれぞれ一部（旧甲州街道沿い）に集落の中心があった村落です。

幕末の地誌には「今戸数百六十九煙、大抵街道(甲州街道)の左右に簷(のき)を連ね、或は田畝(でんぼ)の間に位するもあり」（「新編武蔵風土記稿」）とあります。ハケ下の「小野宮」と「間嶋」は本宿に属した集落です。

地名の起こりは、甲州街道がハケ下を通っていた頃に、この集落が宿場であったことによります。

古い甲州街道は品川道から大国魂神社隨身門を通り、高安寺の南辺を抜け、水田をぬって四谷に向かい、多摩川を渡って日野の万願寺へと続いていた道です。

本宿村はもと車戸村と呼ばれたという説があります。



## 5 中河原周辺の沖積低地形成時期と府中市の遺跡

### (1) 地質図で見る中河原と周辺地域形成時期

多摩川が形成した中河原周辺の沖積低地や段丘の形成時期を、産総研地質調査総合センター ウェブサイトで参照しました。

武蔵野段丘は 12.6～7 万年前、立川段丘は 7～1.17 万年前、中河原が位置する沖積低地は 1.17 万年前～現在となっていました



### (2) 府中市の遺跡

府中市では、武蔵野段丘（12.6～7 万年前形成）の国分寺崖線沿いで旧石器時代の武蔵台遺跡から約 3 万 5 千年前の石斧など、南関東地方で最も古い時代の石器が出土しています。武蔵台遺跡では、約 1 万 1 千年前の縄文時代初め頃のムラの跡も発見されました。

約 5,000 年前の縄文時代中頃には、立川段丘（7～1.17 万年前形成）の府中崖線沿いでは、本宿町、清水が丘などにもムラが営まれました。縄文時代のムラは、崖下の湧き水を囲むように、段丘上に立地しているのが特徴です。

1998年（平成10）12月に、中河原と同じく沖積低地（1.17万年前～現在形成）に所在する日吉町の東京競馬場構内から、弥生時代の遺跡が府中市では初めて発見されました。この遺跡は、弥生時代前期から中期の初め頃（今から約2,400年前）のもので、鍬などの石器を作りながら暮らしていた跡や、壺の形をした土器を地面に埋めた特殊な遺構などが見つかっています。



【平成29年度 郷土府中（中学校社会科副読本）から本文・附図引用】

## 6 中河原駅の歴史

中河原駅は、大正14年（1925年）3月に開通した府中と八王子を結んだ玉南電気鉄道（玉南鉄道）の駅として開業しました。

大正15年（1926年）12月、現在の京王電鉄(株)の前身の京王電気軌道に合併し、昭和49年（1974年）7月に駅舎を高架化、平成16年（2004年）12月にはエレベーターを設置するなど駅舎をリニューアルしています。

中河原駅の歴史

|            | 出来事  |
|------------|--|
| 大正14年3月24日 | 玉南電気鉄道開業（府中～東八王子）に伴い中河原駅開設。  |
| 大正15年12月4日 | 玉南電気鉄道が京王電気軌道（株）と合併。   |
| 昭和3年5月22日  | 京王線の新宿～東八王子直通運転開始。   |
| 昭和4年4月7日   | 府中～中河原複線化  |
| 昭和8年11月    | 現京王閣に在った砂利採掘場の中河原への移転に伴い中河原駅西側に砂利運搬用引込線を設置。                              |
| 昭和30年代     | トラックによる砂利運搬が主流になり中河原駅の砂利運搬用引込線撤去。  |
| 昭和39年4月21日 | 中河原～聖蹟桜ヶ丘の複線化完了。京王線の新宿～北野の複線化完了。（多摩川橋梁は玉南電気鉄道が設置時に複線化を見込んで築造し、単線運行していた。） |
| 昭和49年7月30日 | 鎌倉街道の拡幅整備と並行し中河原駅高架化。  |
| 平成7年2月     | 中河原駅北口再開発事業により北口ロータリー整備。   |
| 平成16年12月   | 駅舎リニューアル完了、エレベーター設置。   |

参考資料 矢嶋秀一著「京王線井の頭線 街と駅の1世紀」  
村松功著「京王電鉄 まるごと探見」



撮影年月日不詳（地上駅時代の「京王帝都電鉄 中河原駅」）

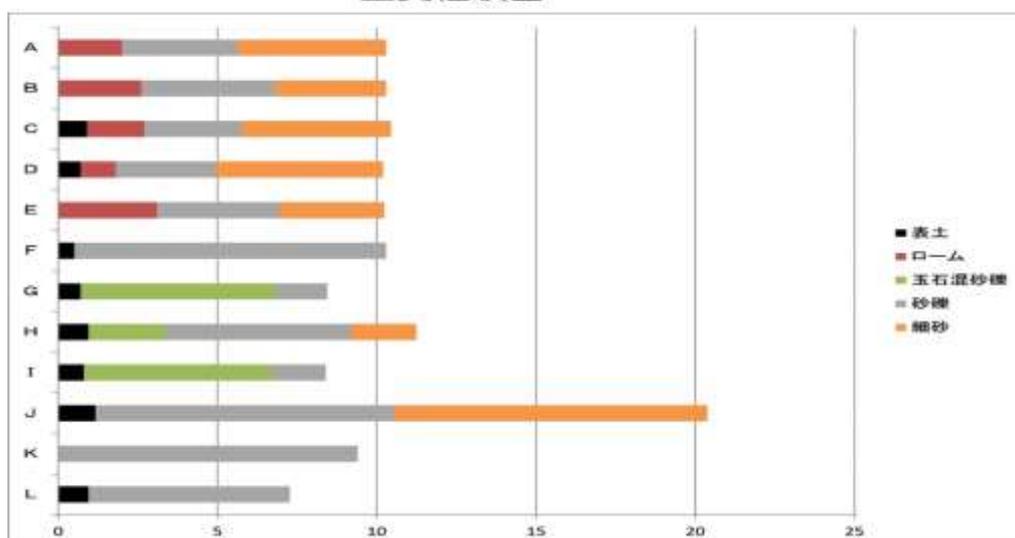
## 7 【参考資料】中河原と周辺の土質柱状図

中河原から甲州街道沿いにかけての東京都建設局の東京の地盤（GIS版）データをエクセルのグラフに加工し、国土地理院地図電子国土WEBの治水地形分類図（更新版）にポイントを落としてみました。ハケ上とハケ下の土質の違いが分かります。（Jポイントは中河原駅北口地区第一種市街地再開発事業の際の地盤調査の時の土質柱状図を使用。）

治水地形分類図(更新版)で見る  
土質調査位置



土質柱状図



**中河原都市開発株式会社**

〒183-0034 東京都府中市住吉町 1 丁目 8 4 番地の 1

TEL 042-351-4611

FAX 042-351-4612

EMAIL [ntk@apricot.ocn.ne.jp](mailto:ntk@apricot.ocn.ne.jp)

HP URL <http://nakagawara-tokyo.sakura.ne.jp/index.html>

TWITTER [@toshikaihatsu](https://twitter.com/toshikaihatsu)

※中河原の歴史など、地域の問題をホームページやツイッターで提供しています。ご覧ください。



スマホ QR コード